



三島市郷土資料館



案内板

三島市郷土資料館において、令和2年8月1日(土)～8月31日(日)の間、企画展「浮世絵でたどる東海道五十三次と四つ辻のまち三島」が開催されており、8月6日(木)鑑賞に行ってきました(写真上左右)。

今回の企画展では、江戸時代の東海道を描いた歌川広重の浮世絵を楽しんで頂くと同時に、東海道・甲州街道・下田街道が交差する、四つ辻の町として繁栄した、三島宿を紹介しています。

米国のボストン美術館が所蔵する浮世絵のうち、歌川広重の保永堂版、東海道五十三次の精巧な複製を絵巻にした「東海道五十三次絵巻」2巻セットが、昨年「トッパン・フォームズ株式会社」から三島市に寄贈され、今回展示されることになりました。



1江戸 朝之景



11箱根 湖水図

江戸時代には、東海道を始めとする「五街道」と呼ばれる重要な幹線道路があり、幕府はこの「五街道」を整備し、街道沿いに宿場町を置きました。そして庶民の旅も盛んになったため、宿場町には旅籠や茶屋が立ち並びました。

それでは、ただいまより…1江戸(日本橋)をスタートし(写真上左)…55京都(三条大橋)まで…東海道で…広重の浮世絵旅を…一緒にしましょう…。

一般的に江戸をたって京に向かう場合、最初の宿泊地となったのが戸塚宿、あるいはその手前にある保土ヶ谷宿でした。日本橋から保土ヶ谷宿までが八里九町(約33km)、戸塚宿までは十里半(42km)です。1日の工程はおよそ八里から十里強(32～40km)といえそうです。



12三島 朝霧



三島 行書版

江戸時代の三島宿は「東海道五十三次」のひとつに数えられる宿場町でした。三島宿の東には東海道随一の難所である「箱根八里」が控えており、これから箱根路を登ろうとする人や、箱根路を降りてきた人の多くが宿泊しました。三島宿では伊豆国、幕府直轄領2,632石、人口4,048人、本陣2軒、脇本陣3軒、旅籠74軒が存在しました(写真上左)。

宿の東はずれ、川原谷より三島宿を望む情景が描かれています。茶屋に描かれた役者絵とおせん茶屋の看板は歌舞伎で人気の役柄であった「三島のおせん」の名前を付けたようです(写真上右)。



四つ辻のまち三島



13沼津 黄昏図

東海道・甲州街道・下田街道が交差する…四つ辻の町として繁栄した三島宿です(写真上左)。写真上右は、沼津宿で駿河国、沼津藩2,253石、人口5,364人、本陣3軒、脇本陣1軒、旅籠55軒が存在しました。



17由比 薩埵嶺



22岡部 宇津之山

由比の薩埵嶺(峠)は、由比宿と興津宿を結ぶ東海道の難所の峠ですが、富士山と駿河湾の絶景で、現在も人気のスポットです(写真上左)。

現在ではJR東海道線の由比駅から興津駅までの間には、薩埵峠経由のハイキングコースが整備されていて、富士山と駿河湾の両方を一度に楽しみながら歩けるので、多くの人々で賑わっています。この近くに西倉沢一里塚があり、江戸日本橋から40里(約157km)です。



[23 藤枝 人馬継立](#)



[24 島田 大井川駿岸](#)

幕府は公的な荷物や旅人を、人や馬を使って宿場町から宿場町に、リレー方式で運ばせる制度をつくりました。この方式を「宿継」、「人馬継立」などといいます(写真上左)。

江戸時代の東海道の難所「越すに越されぬ大井川」です(写真上右)。島田と金谷両宿で1,000人ほどの川越し人足がいました。



[25 金谷 大井川遠岸](#)



[27 掛川 秋葉山遠望](#)

「東海道中膝栗毛」の弥次郎兵衛・喜多八の二人が、江戸を出て最初に泊ったのは戸塚宿ですが、2日目は戸塚宿から小田原宿まで約40km、3日目は小田原宿から箱根宿まで約30km強を歩いています。

毎日10時間も歩き続けながら目的地に向かうというのは、現代では考えられません。履物もワラジ履きであったことを考えると、一般的に昔の人は想像以上に健脚のようです。



[28 袋井 出茶屋ノ図](#)



[30.31.34.35](#)

写真上左右は、28袋井(出茶屋ノ図)、30浜松(冬柵ノ図)、31舞阪(今切真景)、34二川(猿ヶ馬場)、35吉田(豊橋の橋)です。

このような浮世絵の美しさは、世界的に評価を得ています。欧米人が描けないような平面のデザイン性とあざやかな色彩、そしてオリエンタルで東洋的な雰囲気が人気のようです。



1～55全体



55京都 三条大橋

53か所の宿場に、出発地と到着地を足した、55番目の京都 三条大橋に到着しました。総距離126里(495Km)の長旅でした(写真上右)。

浮世絵でたどる東海道五十三次と四つ辻のまち三島…如何でしたでしょうか！江戸時代の旅人が12泊13日の期間を要して歩いた工程、日本橋から京都までを…今日は1時間30分で鑑賞してきました。街道風景や旅人の様子、また四季折々の雨、風、雪、などの気象の変化が巧みに描かれ、江戸時代へタイムスリップしたようでした。

長尺印刷で継ぎ目なしの連続画像で、全55点の浮世絵を1枚の和紙に、同時印刷した「東海道五十三次絵巻」と「四つ辻のまち三島」でした。

インフォメーション

- ・施設名：三島市郷土資料館
- ・住所：三島市一番町19-3(楽寿園内)
- ・入場料：無料(ただし楽寿園入場料300円が別途かかります。15歳未満は無料、学生は学生証提示で無料)
- ・開館時間：午前9時～午後5時(4月～10月)
- ・休館日：毎週月曜日(ただし、祝祭日の場合は翌平日)
- ・お問合せ：055-971-8228

取材：中伊豆地区担当 生きがい特派員 安藤 智章